

第 5 回水稲病害虫発生予察結果(伊豆市内)



4月下旬～5月上旬田植えの早生品種(コシヒカリ・にじのきらめき等)

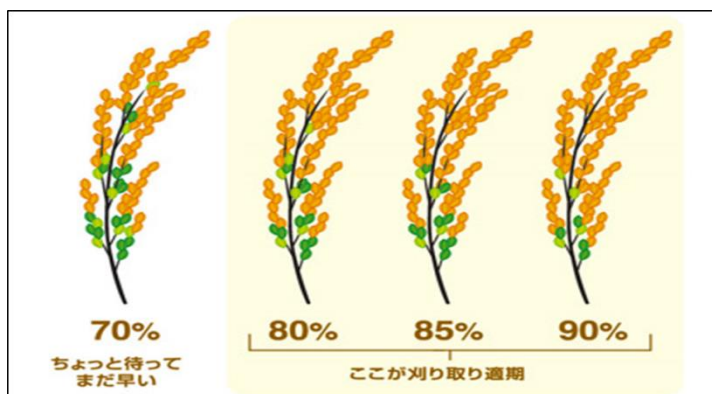
【生育状況と栽培管理】

4月中旬に田植えをした田んぼでは籾をつぶすと白い液の出る乳熟期となっており、4月下旬～5月上旬に田植えをした田んぼでは80%～90%ぐらい穂が出ている穂ぞろい期となっております。

玄米の生育には水が必要となりますので、間断灌水の水管理を行うようにしてください。また、収穫作業のために早期に落水をする方が見受けられますが、早期に落水してしまうと籾は完熟しきれていないので、玄米の厚みの形成に影響が出たり、登熟不良により品質の低下につながる可能性があるため、収穫7日前までは間断灌水の水管理を行うようにしてください。

【早生品種の出穂後の積算温度について】

コシヒカリの場合、出穂から数えた積算温度が 1,000℃に達した頃が刈取適期と言われています、前年の刈取日を目安にすると、気象条件により刈取適期が前後することがありますので、籾の黄化具合を確認して刈取り時期の判断を行ってください。(籾の80%～90%程度が黄変し、穂の元に緑色の籾が一部残っている頃)



各地区の早生品種の出穂が確認出来てからの積算温度は以下の通りとなります。

(7月23日時点)

地区 温度・出穂	原保	門野原	北又	大平
積算温度(℃)	197.4	—	89.5	89.5
出穂からの平均気温	28.2	—	29.8	29.8
出穂期	7/16	7/23	7/20	7/20

※積算温度と出穂確認日はJAが行っている、各地区の巡回圃場での計測値となります。

【病害虫の発生状況】

今回の調査では、防除が行われていない田んぼでは、小型カメムシ（5mm程度）のアカスジカスミカメやウンカ（3mm～5mm程度）の確認がされました。カメムシの防除は「第4回水稻病害虫発生予察結果」に記載されておりますのでご参照いただき、適期防除をお願いいたします。

5月中旬～下旬田植えの中晩生品種（きぬむすめ・あいちのかおり SBL 等）

【生育状況と栽培管理】

今回の調査で中生品種の幼穂は平均0.4cmとなっており、約3週間で出穂すると予測され、晩生品種の幼穂は確認されませんでした。

幼穂の成長には水が必要となります、水が不足すると幼穂の生育に遅れや稔実が悪くなる可能性が高まります。幼穂の形成が確認できた方で中干しを行っている方は、間断灌水を行うようにしてください。

【病害虫の発生状況】

今回の調査では中晩生品種につきまして病害虫は確認されませんでした。早生品種ではカメムシやウンカの発生確認されておりましたので今後の動向に注意してください。

**前回の予察結果・栽培管理は
こちらからご覧になれます！
次回予察予定 8月13日（木）**



作成日：令和8年7月23日

J A ふじ伊豆修善寺営農経済センター

担当：竹村

電話：0558-72-4461